



## 第2回大学入学者選抜における総合的な英語力評価を推進するための ワーキンググループ説明資料

実施主体名: IDP:IELTS Australia  
テスト名: IELTS(アイエルツ)

### ①実施している英語資格・検定試験の概要

#### -IELTS の概要

IELTS(International English Language Testing System)は、米国、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、および英国を含む英語圏の国々に留学、就労または移住を希望する人々の英語力を測定する、ハイスタークスの英語4技能試験である。2017年には全世界で350万以上の人々が受験しており、IELTSを認定している機関は世界中に11,000以上あり、日本の大学入試でもIELTSを活用する大学は年々増えている。

#### -IELTS の受験方式

IELTSは試験会場で受験する「ペーパー版」と「コンピューター版」の2つの受験方式に加え、2022年7月より自宅で受験可能な「オンライン版」IELTS Onlineの提供が開始された。いずれの方式でも、試験内容、評価基準、難易度は同じである。

#### -IDP:IELTS Australia の日本での試験実施状況

##### <会場受験>

##### 実施エリア:

札幌、東京、大阪、福岡の4か所に公式のテストセンターを構え、全国で試験を実施している。2022年7月現在、定期試験開催があるエリアは以下の通りである。

札幌、仙台、東京、横浜、浜松、名古屋、京都、大阪、神戸、岡山、福岡、北九州、那覇

##### 実施頻度:

IELTS ペーパー版は年間36回前後(毎月3回程度)

IELTS コンピューター版は東京(3会場)、大阪(2会場)、京都(1会場)にて、毎週複数回

→試験日程・会場情報:<https://ieltsjp.com/japan/test-dates>

### <自宅受験>

IELTS オンライン版は週 1 回 ※今後開催頻度が増える予定

→詳細情報:<https://ieltsjp.com/japan/lp/ielts-online-bookings-open>

-IDP:IELTS Australia の日本での高校生の受験状況

2 年前と比較して、高校生の受験生は約 3 倍増

過去 1 年間の傾向として、「ペーパー版」と「コンピューター版」の割合はほぼ半々

## ②現在の取り組みに関して

-地理的・経済的な事情への配慮

IELTS の受験機会が無いまたは少なく、東京や大阪への移動を余儀なくされている地方の受験生の負担を軽減すべく、試験会場の拡大に努めている。2020 年からは札幌市にテストセンターを開設し、道内で毎月試験を実施している。2021 年 11 月より、沖縄県那覇市に、2022 年には、岡山市及び浜松市に試験会場を設置した。

-オンライン受験システムの整備

IELTS を共同運営する、弊社 IDP とブリティッシュ・カウンシル、ケンブリッジ英語検定機構の 3 団体で、自宅等で受験可能な IELTS オンライン版(IELTS Online)を開発。

IDP では、2022 年 7 月より日本を含め世界約 30 か国を対象に IELTS オンライン版の実施を行っているが、以下のような制限もある。

>現時点では、18 歳未満の方の受験は認められていない。

>現時点では、試験実施頻度が週 1 回、平日のみ。今後開催頻度を高めていく計画。

>書面での成績証明書は発行されない。PDF のダウンロード、電子送付は可能。

>移民局での英語力証明には利用不可。

→詳細情報:<https://ieltsjp.com/japan/lp/ielts-online-bookings-open>

### 不正行為防止対策

IELTS が設定している非常に厳しいセキュリティー基準に沿って、試験前の本人と受験環境の確認、試験中は人間の試験官監督者および AI 技術による監視、結果開示前の確認等、各段階で、不正行為防止のための対策が講じられてる。

→IELTS オンライン版のセキュリティー対策に関する動画

<https://www.youtube.com/watch?v=dX9VMY0BEkw>

#### -高校会場の拡充について

IELTS の試験会場は、セキュリティー面等の観点から非常に厳しい基準を設けており、高校を試験会場として使用するには様々な条件を満たす必要があり、高校側の負荷が高い。そのため、弊社としては積極的に高校会場の拡充には取り組んでいない。

しかし、IELTSの受験機会が無い地域で受験機会を提供したいという高校側の要望を受け、IELTSの基準を満たすことが可能と判断し場合は、高校会場に設定することもある。

#### -障害のある受験者への合理的配慮の推進

IELTS は原則すべての障害者への配慮を行っている。

<https://ielts.jp.com/test-guide/special-requirements/>

#### -成績提供の利便性の向上について

IELTS ペーパー版で受験した場合は試験日より 13 日後に、IELTS コンピューター版の場合は 3～5 営業日後に試験結果をオンラインで開示し、数日以内に国内テストセンターから受験生に試験結果を郵送しているため、受験後約 2 週間で成績が手元に届く。

また、大学が IELTS の認定機関の登録を行えば、成績証明書をオンラインで受領し、閲覧することも可能。

<https://ieltsjp.com/ielts-recognising-organisation/>

#### -各試験の質や水準等に関する第三者評価のあり方や調査研究の実施

IELTS は英国政府の資格・試験監査機関である Ofqual により第三者評価が行われている。Ofqual の関連サイト：

<https://www.gov.uk/government/organisations/ofqual/about>

IELTS に関する調査研究は 30 年に渡って行われており、IELTS の公式サイトにて、様々な研究結果や論文を公開している。

<https://www.ielts.org/for-researchers/research-reports>

以上